

雇用率は 達成できる！

—生活協同組合コープやまぐち—

職場 ポ

EMPLOYMENT REPORT

(文) 清原れい子 (写真) 小山博孝



生活協同組合コープやまぐち

〒753-0872 山口県山口市小郡上郷901-21
TEL 083-995-3600 FAX 083-995-3711

WORKSHOP REPORT



サンレッドの太陽を表したシンボルマーク。
真ん中は山口県のシルエット

一九六三年、三八七名の組合員が出資金五万円を持ち寄って設立された「コープやまぐち」は、組合員一六万二〇〇〇人、二〇〇七年度の年間供給高一九億円の組織となった。その三分の二は一〇カ所の共同購入センターから組合員宅に宅配する、いわゆる共同購入で、県下には八つの店舗もある。職員は二二八人、パートタイマー、アルバイトを含めると約一〇〇〇人が働く。

生協の理念として 社会的責任を考える

山口県内で生協事業を展開する「生活協同組合コープやまぐち」の本部と商品センターは、新山口駅と湯田温泉駅のほぼ中間、中国自動車道・小郡インター近くの山口県流通センター内にある。

赤い花のように見えるシンボルマークは、サンレッドの太陽を表したのも。真ん中が山口県のシルエット、六つの花びらのようなコロナは、生協活動のベースとなるキーワード「くらし・健康・文化・福祉・環境・平和」を象徴する。



組織経営企画部人材開発グループ
田北謙二グループマネジャー

基本理念は、「一人ひとりの願いを寄せあい、私たちのまちに人間らしい豊かなくらしの創造を」、職員の行動指針は、「人・いきいき、商品・いきいき あなただの笑顔が わたしのよるこび」。

〇二年、田北謙二さんが組織経営企画部人材開発グループ（当時は人事教育）のグループマネージャーになったとき、障害者雇用率は未達成だった。

「当時は総務で障害者雇用納付金申請書を作成していたのですが、その後、担当者が定年退職をして、後任者から書類をつくってほしいという話が私のところにきました。恥ずかしながら、それまで法律で障害者雇用率が決められているとは知らなかったのですが、作成してみると協同してみんなで助け合っていこうという理念を掲げている生協がこれでもいいのだらうかという思いを抱きました」
それから約六年。現在の障害者雇用率は

は二・四〇%（常用雇用者数五百数十人）。今回は、この間の取り組みを紹介する。

学校からの働きかけが きっかけに

コープやまぐちの商品センターでは、本格的な取り組みが始まる前、ハローワークの紹介で知的障害者が一人働いていました。

「私が担当となってからは、正式な組織と組織とのやりとりが始まったのですが、その前から商品センターに養護学校から直接、職場実習の依頼があったようです。彼は職場に定着して、今も元気に働いていますよ」

〇三年、地元の山口総合支援学校（山口県では特別支援学校を総合支援学校と呼ぶ）高等部の先生から「商品センターで職場実習をさせてほしい」との依頼がきた。

「商品センター長と相談の上、お引き受けしましたが、その後、なんとか就職をさせてほしいとの申し入れがありました。パートナー職員の採用は現場の所属長の権限ですので、どういう仕事ができるのか、本人が本当にその仕事が好きでずっと続けられるのか、本人の意思と適性を見極めたうえでという条件で職場実習をさらに積み重ねて、採用することに

だりして、私のわかる範囲で話をしています」

通勤は自宅とグループホームから。職場実習では、きちんと通勤ができるかも考慮する。

「通勤も一つの大きなポイントですが、ご家族の協力は大きいですね。電車、バス、自転車通勤してはいますが、天気が悪い日は会社まで送ってくるご家族もあります。車の免許も一人持っています。伝達事項は、個人差はありますが一人ひとりに何回も説明します。それでも理解できない方には現場の責任者からご家族に電話連絡しています」

今までに知的障害者で退職した人はいない。

「話を聞いたから理解できるといえるのではないと思いますので、最初からずんなりといったわけではないのですが、長い間一緒に働いていく中で信頼関係ができてきたのだと思います。障害者の方も成長していることが大きいと思います」

障害者と働いてきて、中村さんが感じていること。

「障害者なり、障害者について、その部署の中では理解されていますが、ほかの部署ではまだ近寄りたいたいというか、十分理解されていないところが課題かなと思います。みんなのコミュニケーションがうまくいくように、障害や障害者について

での学習の機会をつくりたいと思っています」

ピッキング作業で 各自の役目を担う

商品センターでは、共同購入の商品がベルトコンベア上で次々とセットされていく。

「ピッキングは女性が担当します。男性はピッキングの補助作業で、棚に商品を入れたり、セットし終わった商品を台車に積んで運んだり、箱積みや箱の整理などを行っています。現場はローテーションで作業していますが、知的障害の人たちは全員男性なので、可能な範囲で作業の幅を広げています。一緒に作業する人たちが仕事を教えています」

一番先輩の林伸欣さんは、〇二年に就職して七年目。冷凍品を扱い、ピッキング済みの箱が台車いっぱいになり積みあがると、冷凍庫の出荷口まで運ぶ。「詰め合わせのミスがないか、確認もしています」

〇七年に働き始めた江田勝紀さんのその日の作業はコンテナ積み。「がんばって、なかなかよくやっていますよ」と職場の方。通常勤務は九時



コンテナ積み作業をする江田勝紀さん



品分けされた商品を冷凍庫へ運ぶ林伸欣さん

から四時までだが、「昨日は、仕事が五時一〇分に終わりました。棚に商品を補充する仕事もします。仕事は慣れました」守永大二朗さんは就職して五年目。週三五時間働く。

「箱にビニールをセットしていますが、機械のメンテナンスも、ビニールのロー

職場 ルポ



ラインにコンテナを流し、機械のメンテナンス、ビニールのロール交換と忙しく働く守永大二朗さん

ルの交換もできます。ローテーションで持ち場が変わっても、全部の作業ができますね。先輩に仕事を教え、実習生にも積極的に教えています」と中村マネージャーは言う。



ダンボールの返却用のコンテナ、処分するダンボールなどを仕分けしてカゴ車に。業者別、種類別に積み込む、吉村大志郎さん



守永さんは、就職が決まってから運転免許をとった。「車の免許は、実習の後、雪の降る日も自転車で教習所に通ってとりました。たいへんなこともあるけれど、仕事はみんな好きです」

石村和也さんは、〇六年に就職した。九種類の牛乳をカゴ車に種類別に積み込み、運搬する。

「仕事は楽しいです。実習のとき、むずかしかったのは確認作業です。いま気をつけていることは牛乳を落とさないようにすること。これからは、いろいろな仕事をしてみたいです」

「重量もあるので、人がなかなか定着しなかったのですが、石村君でやっと定着しました。場内のダンボールの片付け、空いた台車の整理もしています」



9種類の牛乳パックを分別してカゴ車に積み、運搬する石村和也さん

と中村さん。

吉村大志郎さんも就職して三年目。ベルトコンベアで送られてくるメーカー返却用のコンテナ、ダンボールなどを、カゴ車に業者別・種類別に分けて積み込んでいる。勤務時間は午後一時から夕方まで。「可能なら、仕分け作業と確認作業をしたいです。午前中から一生懸命働きたいです」と意気込み十分。職場の人たちに「センター長になる！」と宣言しているとか。

「吉村君は自転車通勤で、坂道ものともせず登ってきます。ここは一人で作業できますが、仕分けや確認作業は周囲の人との協力が必要ですので……」

違う仕事がしてみたい、いろいろな作業をしてみたい。やりたい仕事があるのは、ずっと働き続けたいという気持ちがあればこそ。障害のある人たちと中村さ

んのやりとりが自然だ。

「長期に実習をしている間に適性を見極めて配置を考えます。職場学習の一つとしての実習の場もお引き受けしていますので、実習は年に何回もあります。職場の人たちも慣れていきます。江田君は誰よりもよく挨拶して、準備体操の音頭をとってくれますから、雰囲気明るくなりますね」

できるところから 一歩を踏み出す

コープやまぐちでは最近、夕食宅配も始めた。

「山口県にも一人暮らしのお年寄りがたくさんいらっしゃいます。夕食宅配は手渡しですので、県外にいる息子さん娘さんからご注文をいただいたりしています。田舎のお年寄りは元気ですが、所在確認もできますので、この分野は伸びていますね」

数年間で障害者雇用率を達成した要因を、担当の田北さんは次のように考えている。

「まず障害者雇用の現状を認識したことで、それまで知らないでいたことを知ることがあります。商品センターで以前に実習を受け入れていたこともありすが、一番大きかったのは、総合支援学校の先生から『お願いします』と声をかけ

られたことと、関係機関との繋がりができたことだと思っています。また、所属長に社会的な責任、必要性を理解してもらえたこと、障害者を快く受け入れてくれた職場のみなさんの協力も大きいですね」

ハローワークの障害者雇用促進セミナーで講師として話をしたとき、『障害者を雇用して負担が増えないか』と参加者から質問が出た。

「負担が増えないとは言いません。むしろ増えるといったほうが正しいと思いますと答えました。人事だけではどうにもなりません。私どもは所属長の判断でパートナー職員は採用できませんから、所属長の理解と一緒に作業していただくパートナーの人たちの理解、納得が大事だと思います。情報システムセンターに



福祉法人の園外作業として、発泡スチロール箱の回収、リサイクル作業も行われている

は電話でお願いすることは可能でしたが、なぜ必要か、協力してもらえないかと実際に向向いて理解していただくことに力を注ぎました」

障害者雇用への取り組みが県内に知られるにつれ、就職希望も増えている。雇用率未達成事業所へのメッセージ。

「支援してくださるところはたくさんありますので、障害者の雇用は担当者の思い一つで始められると思っています。人事の担当として、できることから障害者雇用に取り組んでいただければと思います」

みんな働き続けているのが、なによりうれしい。

「所属長に『あの人、元気にやっている？』と聞いたとき、『元気でやっているよ』と言われたり、車の免許をとって生き生きと仕事をしているという話を聞くとうれしいですね。コープやまぐちの障害者雇用は緒についたところです。これから一緒に働く障害者の方が増えるように努力していきたいと思っています」

障害者雇用への真摯な取り組みは、理解の“波”を広げていく。山口県には、障害者雇用率八%のユニクロ本社があり、雇用支援のネットワークもある。「コープやまぐち」も、その動きのリーダー的な事業所に、と願っている。